

研究のため、カルテの情報を使用させて頂いています

◎対象となる患者さん: 18 歳以上で ICU に入室して治療を受けられた方

1、研究の題名 『ICU を退出後に直接自宅退院が可能かを予測する要因・因子の検討』

研究期間： 2021 年 12 月 23 日～ 2025 年 3 月 31 日

2、研究の目的

近年、集中治療室(以下、ICU)におけるリハビリテーションの重要性が述べられてきており、早期のリハビリテーションの導入は退院後の身体機能の維持につながると言われています。当院でも ICU においてリハビリテーションを早期に提供させていただいています。ICU への入院を経験された患者さんにおいては、自宅退院をする前に転院を経由したり、自宅退院できずに施設への転院・入所となる場合が多く見受けられます。しかし、中にはそれらを経由せずに自宅に退院できる場合があります。近年、ICU を経由した入院で、自宅へ直接退院出来ることを予測するいろいろな要因・因子があることがわかってきています。例えば、年齢、入院前の日常生活動作が自立、入院期間、人工呼吸器の挿管期間などが影響すると言われていて、自宅退院を予測する要因・因子は複数存在することがわかっています。

しかし、様々な自宅退院を予測する要因・因子がある中で、実際的には複数の要因が組み合わさっていることが多く、どの組み合わせが最も自宅退院に影響を与えるのかは分かっていないのが現状です。臨床的には、自宅退院に影響しやすい日常生活動作や生活環境などがあることが推察されますが、自宅退院を予測する要因・因子やその組み合わせが特定できれば、その問題点の解決にむけ、より早期にリハビリでのトレーニングを追加したり、ソーシャルワーカーの早期介入から医療資源・社会資源活用の早期提案や転院へのスムーズな移行を推進したりすることが出来ると思われまます。

そこで本研究では、自宅退院を最も予測する因子、またその組み合わせはどのようなものがあるかを検討することを目的としました

3、以下の期間に上記(◎対象となる患者さん)を満たした方が対象です

対象期間： 2021 年 4 月 1 日 ～2024 年 3 月 31 日

4、本研究で使用する情報について

本研究に関して 診療記録 から 以下の情報を取得します。

【患者背景】

年齢、性別、身長、体重、体格指数、診断名、診療科、既往歴、冠危険因子の有無、入院前の日常生活動作レベル、同居者の有無、介助者の有無とその年齢、外出時の移動手段、家屋構造、介護認定の有無

【医学的情報】

在院日数、挿管期間、外科的介入の有無、外科的手術に関連する情報、病気の重症度、併存疾患指数、ICU 関連せん妄の有無、入院中の合併症の有無

【検査所見】

採血の検査値、心臓エコー検査値

【理学療法評価・身体機能特性】

ICU 退出時の基本動作能力(寝返り、起き上がり、座位、立位、歩行)、筋力、日常生活動作能力と自立度
ICU退出後直近の体組成分析(四肢の筋肉量)
ICU 内でのリハビリテーション実施状況(経過日数、頻度、強度、種類、バランス評価)

5、取得情報の利用範囲

飯塚病院 で使用します。

6、本研究の責任者

この研究の責任者は以下の者です。研究の成果を学会や論文等で発表する際には名前等を番号や記号に置き換え個人が特定できない様に行います。また、この研究にあたり個人情報漏洩等がないよう取得した情報等を管理し、患者さんに不利益がない様責任を持ちます。

(部署名)リハビリテーション部

(研究責任者名) 大坪 翔

7、対象となる患者さんまたはそのご家族等の方へ

この研究にあなたの情報が使用されることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、ご遠慮なく下記連絡先までご連絡ください。お申し出頂いても、不利益を被ることは一切ございません。どうぞ、ご安心ください。また、この研究の計画書を研究に支障のない範囲で閲覧することができます。その場合も下記連絡先までご連絡下さい。

(連絡先)0948-22-3800 (代表)

(担当者名) 大坪 翔 (リハビリテーション部)